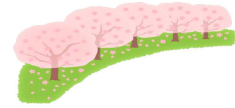


恕の心



令和4年3月10日 校長 廣瀬 真樹

卒業にあたって

「今」

剣崎 克彦

時間には「過去と現在と未来」しかない。
過去は過ぎてしまったことだから
悔やんでもしようがない。
未来はまだ来ないことだから
心配してもしようがない。

いちばん大切なのは

「今」なのだ。

「今」を生きる。

今を最高度に生きているか。

未来を見つめつつ今を大切に生きること。

生きることを楽しむ。

そういう人の目は輝いている。

明日、いよいよ令和3年度第75回卒業証書授与式が行われます。

「卒業式」は言うまでもなく、学校にとって、1年の中で最も大切な行事です。人生の中でも大きな節目の一つです。

節があると言えば竹。昔は本当に棒高跳びの棒に使われていたそうです。竹はしなやかで、手で強く曲げても折れず、離すと元に戻ります。節があるからこそ強風にも耐えることができます。人の人生にも節目があります。特に式という名のつくものは大切です。入学式、卒業式、成人式、結婚式・・・その節目ごとに自分を振り返り、反省し、新たに歩んでいこうと心に決めていくことで、より強く生きていくことができます。節目とはそういう大切な意味があるのだと思います。だからこそ明日は丸中全員の力で最高の式にしたいと思います。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業にあたって、「今」という詩を皆さんに贈ります。時には過去を振り返ることも、また未来を意識することも大切です。ただやはり「今」を精一杯生きる、「今」を大切に頑張ることが未来につながるのだと思います。この一瞬一瞬を、「今」を、大切に頑張っていってほしいです。皆さんの未来のいっそうの飛躍を祈っています！





月曜日は在校生の式練習。所作の確認、校歌の練習を行いました。大切な節目だからこそ、何度も確認し繰り返し行っていました。放課後は体育館に先生方が集まり、シートの敷き方、椅子の置き方の確認を丁寧に遅くまで打ち合わせをしていました。翌日の朝は教室ワックスがけを今回受験をしない3年生が早い時間から机を廊下に出し、一生懸命行っていました。そして多目的室にはこんな素敵な文字が・・・本校の誇る最高の書道家I先生が白い紙に向かい、一文字一文字、心を込めて書き上げていました。

すべてのことが明日をいい日にするために、最高の門出にするために動いています。「こころ」は見えなくても「こころづかい」は見えます。「思い」は見えなくても「思いやり」は見えるのだと思います。卒業生の皆さん、明日はそんな「こころ」や「おもい」を心で感じながら過ごしてほしいと思います。

校長コラム

贈る言葉

作詞 武田鉄矢

人は悲しみが深いほど人には優しくできるのだから

「贈る言葉」は武田鉄矢さんの所属する「海援隊」というグループの曲で大ヒットした名作です。私はこの曲のこの部分が好きです。

人は生きていく中で楽しいこと、嬉しいことばかりでなく、苦しいことや悲しいこともたくさん経験します。むしろその方が多いかもしれません。でもそれは、自分の心を成長させるとても意味のあることなのだと思います。「優」という漢字は人を憂^{うれ}うと書きます。人の悩みや苦しみを共に思いやることのできる素敵な人になりたいものです。

